

金沢大学大学院法務研究科  
2019年度「法理学」定期試験  
2020年2月5日(水) 8:45-10:15 実施  
出題: 足立英彦 (70点満点)  
解答・解説

1. 次の選択肢から正しいものを1つ選べ。(3点)

- (a)  $\neg A$  は,  $A$  が真であるとき, またそのときにのみ真である。  
(b)  $A \wedge B$  は,  $A, B$  のすべてが偽でないとき, またそのときにのみ, 真である。  
(c)  $A \rightarrow B$  は,  $A$  が偽であるか, または  $B$  が真であるとき, またそのときにのみ, 真である。  
(d)  $A \vee B$  は,  $A, B$  のすべてが真であるとき, またそのときにのみ, 真である。

解答 (c)

解説

- (a)  $\neg A$  は,  $A$  が「偽」であるとき, またそのときにのみ真である。

| A | $\neg A$ |
|---|----------|
| 1 | 0        |
| 0 | 1        |

- (b)  $A \wedge B$  は,  $A, B$  のすべてが真であるとき, またそのときにのみ, 真である。

| A | B | $A \wedge B$ |
|---|---|--------------|
| 1 | 1 | 1            |
| 1 | 0 | 0            |
| 0 | 1 | 0            |
| 0 | 0 | 0            |

- (c) 正しい。

| A | B | $A \rightarrow B$ |
|---|---|-------------------|
| 1 | 1 | 1                 |
| 1 | 0 | 0                 |
| 0 | 1 | 1                 |
| 0 | 0 | 1                 |

- (d)  $A \vee B$  は,  $A, B$  のすべてが偽でないとき, またそのときにのみ, 真である。

| A | B | $A \vee B$ |
|---|---|------------|
| 1 | 1 | 1          |
| 1 | 0 | 1          |
| 0 | 1 | 1          |
| 0 | 0 | 0          |

2. 次の選択肢から正しいものを2つ選べ。(6点)

- (a) A から B が論理的に導けるなら、「A ならば B」という命題はトートロジーである。
- (b) 真偽の両方を取りうる式を矛盾式という。
- (c) 原子式の真理値の組み合わせにかかわらず常に偽となる式を矛盾式という。
- (d) 前提が真であるようなあらゆる場合に結論も真になるような推論を健全な推論という。
- (e) 矛盾からは何も出てこない。

解答 (a)(c)

解説

- (a) 正しい。A から B が論理的に導けるということはこの推論に反例がない、すなわち A 真かつ B 偽になる場合がないということである。したがって「A ならば B」( $A \rightarrow B$ )という命題が偽になる場合もない。つまりこの命題はトートロジー(恒真)である。
- (b) 真偽の両方を取りうる式は事実式である。
- (c) 正しい。
- (d) 前提が真であるようなあらゆる場合に結論も真になるような推論を妥当な推論(valid inference)という。健全な推論(sound inference)とは、妥当な推論であり、かつ、その推論のすべての前提が真であるような推論のことである。
- (e) 矛盾からは何でも出てくる。(Ex falso quodlibet.)

3. 次の選択肢から正しいものを1つ選べ。(3点)

- (a) 法理学とは、「何が法か?」という課題と取り組む学問である。
- (b) 命令されていること(義務づけられていること)は許されていない。
- (c) 不可能なことでも命令できる。
- (d) 現実世界よりも良い世界は存在しないと思っている人に対しては、何でも命令できるし、何でも禁止できる。

解答 (d)

解説

- (a) 法理学は「法とは何か」という課題と取り組む学問である。
- (b) 命令は作為の許可を含意するので、命令されていることは許されている。
- (c) ある世界  $w$  においてある行為  $V$  が不可能( $\neg \Diamond V$ )であれば、 $w$  から到達可能なすべての可能世界において  $V$  は偽( $\neg V$  が真)。したがって、 $w$  から到達可能なすべての理想世界においても  $V$  は偽( $\neg V$  が真)。したがって  $w$  において  $O\neg V$  が真、 $O\neg V$  と  $OV$  は反対の関係にあるので、 $OV$  は偽。つまり  $V$  が不可能なら  $V$  を命令できない。
- (d) 正しい。 $OV$  は  $\neg P\neg V$  と、 $O\neg V$  は  $\neg PV$  と同値。 $w$  から到達可能な理想世界がなければ、 $V$  の内容がどのようなものであれ、 $w$  において  $\neg P\neg V$  も  $\neg PV$  も真である。

4. 以下の4つの命題を(1)全称量化記号と条件法、(2)存在量化記号と連言、を含む論理式で表わし、ベン図も描け。なお、 $Px$ :  $x$  is  $P$ .  $Qx$ :  $x$  is  $Q$ . とする。(8点)

(a) All P's are Q's.

解答 (1)  $\forall x(Px \rightarrow Qx)$  (2)  $\neg \exists x(Px \wedge \neg Qx)$  ベン図は省略。

(b) No P's are Q's

解答 (1)  $\forall x(Px \rightarrow \neg Qx)$  (2)  $\neg \exists x(Px \wedge Qx)$

(c) Some P's are Q's

解答 (1)  $\neg \forall x(Px \rightarrow \neg Qx)$  (2)  $\exists x(Px \wedge Qx)$

(d) Some P's are not Q's.

解答 (1)  $\neg \forall x(Px \rightarrow Qx)$  (2)  $\exists x(Px \wedge \neg Qx)$

解説 (a)~(b) それぞれで (1)(2) の両方の論理式を尋ねたつもりだったが、どちらか1つでも正解とみなした。

5. 権限とは何か、また、責務とは何か。(10点)

解答 権限とは、一般規範や個別規範を制定、変更、廃止することによって、自分や他人の規範的地位に変更を加える能力であり、責務とは、自らに対して権限を有する他人が定めた一般規範や個別規範に従わなければならない地位のことである。

6. 行政主体や裁判所の権限の共通点について説明しなさい。(10点)

解答 どちらの権限も、規範を創造する権限ではなく、規範を解釈する権限であるという共通点がある。行政機関は行政行為という名の、裁判所は裁判という名の個別的法規範を定める権限を与えられているが、その規範の名宛人である特定の者はその規範の内容に同意していない。したがって行政機関や裁判所は、既に国民によって相対的かつ間接的な同意を与えられている法律の文言の可能な意味内容の範囲内でしか、個別的法規範を定めることができない。

7. 必然的な解釈、不可能な解釈、偶然的な解釈について説明しなさい。(15点)

解答 必然的な解釈とは、すべての人が同意する語の用法に基づく解釈であり、不可能な解釈とは誰も同意しない語の用法に基づく解釈である。偶然的な解釈とは、すべての人が同意するわけではなく、誰も同意しないわけでもない（少なくとも一人の人が同意する）語の用法に基づく解釈である。

8. 語の用法に基づく法解釈と立法者意思に基づく法解釈が異なる場合、どちらを優先すべきか、その理由を含めて説明せよ。(15点)

解答 語の用法に基づく法解釈を優先すべきである。語は立法者が「述べたこと」であり、立法者意思は立法者が「思ったこと」である。これらの論拠に従うことは、立法者の意思を尊重することを意味し、それは民主主義を尊重するということでもあるので重要である。また、語の用法に基づく論証は、言葉の実際の用法という、変化しにくい事実を論拠としている。そのため、語の用法に基づく論証を重視することは、法解釈の安定性を、したがって法的安定性を増す効果がある。これに対して立法者意思に基づく論証は、証明の困難な立法者意思を論拠とするので、それを重視しすぎると、法解釈を不安定にする可能性がある。以上のことから、とくに語の用法に基づく論証は、民主主義と法的安定性という二つの論拠に基づいているので、一つの論拠（民主主義）に基づく「立法者意思に基づく論証」より優先されるべきである。

以上

参考情報（2020年2月13日現在）

● 定期試験結果

| 履修登録数 | 定期試験受験者数 | 放棄 | 定期試験平均点 | 総合平均点 |
|-------|----------|----|---------|-------|
| 3     | 3        | 0  | 56.3    | 80.3  |

● 総合評価

| S(100-90) | A(89-80) | B(79-70) | C(69-) | 不可 | 放棄 |
|-----------|----------|----------|--------|----|----|
| 0         | 1        | 2        | 0      | 0  | 0  |